

令和2年度 第1回 学校評議委員会 記録

日時 令和2年7月13日(月)

13:30~15:20

会場 気仙光陵支援学校会議室

【出席者】

<学校評議員>	<学 校>
A 委員 (進路先関係)	校長
B 委員 (地域関係)	副校長 2名
C 委員 (地域関係機関)	事務長
D 委員 (教育関係)	教務主任兼中学部主事
E 委員 (卒業生関係)	小学部主事
	高等部主事
	寮務主任

欠席者 なし

(13:10頃~授業見学 その後、委員委嘱)

1 開会のことば

2 校長挨拶

- ・コロナウイルス感染症対策に係る学校の現状について。地域の方々を行事等にお招きできなかったことをお詫びしたい。また、コロナウイルス対応についての知見も頂きたい。
- ・学校経営計画等の説明をするが、よりよい児童・生徒の学びのために忌憚のないご意見をいただいて今後の学校運営に生かしていきたい。

3 出席者紹介・・・上記出席者のとおり

4 協議

- (1) 学校経営計画について(校長)
別紙資料により校長が説明
- (2) 各学部・寄宿舎運営計画について
スライドにより学部主事・寮務主任が説明
- (3) 進路指導の状況について
資料により高等部主事が説明
- (4) 支援事業の状況について
資料により担当副校長が説明
- (5) その他
各学部通信の紹介

副校長より、これまでのコロナウイルス対応についての説明

(6) 協 議

E委員： コロナウイルスに関して、学校が苦勞しているものと思われる。今後の状況も心配される。コロナウイルスに関して保護者から学校へ問い合わせ等はあったか。最も遠方から通っている児童生徒は？

各主事： 遠野や一関の生徒がいる。

E委員： 本校は県内でも宮城県よりにあり、保護者も心配したのではないか。第2波も心配される。修学旅行が無くなるのは子ども達がかわいそうである。他校での様子など、情報はあるのか。(旅行先で) 少人数で行動するなど、良い方法を考えて実施して欲しいと願っている。

副校長： コロナウイルスに関して、保護者の皆様からは(学校の方針に) 理解を頂いている。県外に出かけた方が、登校させても良いのかを気にし、自粛したケースはあった。陸前高田の診療所の医師が感染していたとの報道があった際は危機感を感じた。寄宿舎の利用人数制限についても保護者の方々にご理解ご協力頂いた。

校 長： 修学旅行については、他校との情報交換を行っている。行き先を変更してもなんとか実施したいと考えている。高等部2年生は、冬の時期にコロナの状況がどうなっているか先が読めない。3学年での実施ということも視野に入れている。中学部3年生は相撲が好きな子どももいて、東京に行かせてあげたい思いもあった。

E委員： 安全面が第一ではあるが、最大限の配慮により、実施をお願いしたい。

※ 以下、お一方ずつご助言をいただく

A委員： 企業の立場で意見したい。近年、世の中の動きが非常に速い。今後の動きが変わると感じている。今、学校で何を教えるべきかを考える時期である。キャッシュレスの世界になるにあたり、お金の使い方をどう教えるかなどである。

人口減につき、地元に残すためにはどうすべきかも考えている。一人で様々な仕事をこなすことが求められている。仕事のマニュアル化が難しくなっている。また、すばやく処理する必要があるなど、時間の制約も厳しくなり、就職のハードルが高くなっている。機械化が進み、仕事内容がオペレーターなどへと変わりつつある。10年後、どのような仕事を残せるのか、考えているところである。

会社説明会をWEBで実施した。採用に係る面接もスマートフォンで行う時代である。WEBが当たり前の時代が来る。学校としてどう対応していくかが課題である。

B委員： 6月末に2日間、高等部の生徒に公民館清掃をしていただいた。感謝申し上げたい。8年間、公民館に関わっているが、初めてのことであった。校長が「社会参加」「実体験」ということを話されたが、生徒の一生懸命な姿を見て、そのとおりで感じた。当日、生徒からバイバイと手を振ってもらったり、笑顔があふれる良い機会となった。

これまでも地域の河川周辺の清掃や郷土芸能など、地域との関わりはあった。今後でもできることを考え、関わっていきたい。

C委員： 毎回、授業を見て思うことは、子ども達の個性の幅、一人一人に合わせて寄り添って支援をし

ているということである。関わりのある生徒についても様子を見ることができた。ありがとうございます。

明日、コロナウイルス対応に関する会議が行われる。入所の施設はコロナウイルスの感染者が出た場合でも閉所することができない。感染拡大を防止しつつも、事業を継続するための、事業継続計画をたてなければならない。学校も寄宿舎があり、コロナウイルス対応についての方法等教えて頂きたい。

D委員：小学校、中学校においても特別支援教育が重要である。以前、勤めていた中学校でも特別支援教育に関して、気仙光陵支援学校にはお世話になった。支援学校で行われているような、一人一人に応じた個別の教育については、小・中学校も学ばなくてはならない。ぜひ、支援学校の知見を小・中学校にも伝達、講習して欲しい。勉強になるはずである。

中学校と特別支援学校との交流は、心を育てる良い機会であった。積極的に進めたい。大人になってから役に立つ経験である。

E委員：このような、（意見交換する）時間が重要である。時間が足りなかった。もっと深く話したい。子どもに還元できるような話し合いができるよう、また機会を設けて頂きたい。

※ 副校長より諸連絡

- ・コミュニティ・スクールのリーフレットについて
- ・次回の学校評議員会のついて

5 閉会のことば